

令和5年度 中央区立明正幼稚園 外部評価報告書

外部評価委員：岩崎 滋、押田まり子、府川晃久、林 真弓、広井良典

報告書作成者：神山安弘

評価時期 令和6年3月

1 重点目標の評価

重点目標1「人と関わる力を育む教育の推進」について

評価指標1「遊びや生活・様々な活動を通し、教師や同年齢・異年齢の友達と関わる機会を充実させる。」は保護者の96%、評価指標2「学級の友達をはじめとするいろいろな人との関わりの中で、教師や友達に自分の思いを伝える、我慢する気持ちや相手の思いに気付く・受入れようとする気持ちが育まれている。」は94%の保護者から「よくあてはまる」「あてはまる」の高い評価を得ている。幼児の教育活動について、保護者アンケート「全体の評価」9の「幼児同士や身近な人とのかかわり」を大切にしたい保育でも高い評価を得ており、教育活動を意図的・計画的に実践していることが理解できる。これらの高い評価を支える園の教育活動は、保護者アンケート「全体の評価」3の「教職員は幼児をよく理解して指導にあたっている」、「全体の評価」4の「教職員は協力して、あたたかく幼児の指導にあたっている」の評価が100%に迫る高い評価を得ており、園が実践している教育活動が保護者の信頼を得ている成果である。

重点目標2「学びの基礎力をはぐくむ教育活動の推進」について

評価指標1「身近な遊具や用具、製作材料などを使って、自分なりに考えたり、工夫したりしている。」は保護者の98%、評価指標2「遊びや生活の中で数量や文字などに親しむ経験を通し、自分の遊びや生活に生かすなど、興味・関心をもっている。」は保護者の92%、評価指標3「遊びや生活を通して、園内の自然に興味をもっている。」は保護者の96%が「よくあてはまる」「あてはまる」の高い評価を得ている。幼稚園での指導や援助、地域の環境を生かした指導の工夫などの製作活動・表現活動・栽培活動・運動遊びなど直接体験を重視した教育活動を計画的に実践している成果である。しかし、評価指標2「遊びや生活の中で数量や文字などに親しむ経験」を「自分の遊びや生活に生かす」の設問は、園の教育活動として実践することや保護者が幼児の姿を通して評価することは難しく、設問内容を検討し表現を工夫することが大切である。

重点目標3「健康な心と体をはぐくむ教育活動の推進」について

評価指標1「成功体験や葛藤体験等の経験、相手を思いやる気持ちやものを大切にする気持ち、必要なきまりを守ろうとする気持ちが育まれている。」は保護者の93%、評価指標2「体を動かして遊ぶことを楽しんだり、進んで体を動かす遊びに取り組んでいる。」は保護者の96%が「よくあてはまる」「あてはまる」の高い評価を得ている。しかし、評価指標1の設問は「成功体験や葛藤体験等の経験」、「相手を思いやる気持ち」、「ものを大切にする気持ち」、「必要なきまりを守ろうとする気持ち」が育まれているかを質問している。これらの内容を一つの回答で示すことは難しく評価の精度を低下させる結果となる。「全体の評価」8の「規範意識」、10の「思いやりの心や命を大切にする心」と設問が重複していることなども検討し、評価指標の表現を吟味することが大切である。

2 今後の改善に向けた意見

○保護者・教員アンケートにおいて全ての評価指標で高い評価を得ている。高い評価の要因についてアンケート結果をもとに分析・考察し、今後も継続して教育活動の質の向上を図ることを期待したい。

○重点目標の内容、教職員の取組である評価指標の内容や表現を検討・整理し、保護者や外部評価委員等に分かりやすい評価ができるように改善を期待する。

3 その他の意見

○「全体の評価」1「幼稚園に行くことを楽しみにしている」、5「明るく伸び伸びと幼稚園生活を送っている」の評価で一部の保護者が「あまりあてはまらない」と回答している。この幼児及び保護者の実態を把握し、今後の幼稚園の教育活動の充実に向けた改善を期待したい。

令和5年度 中央区立明正幼稚園 外部評価報告書

外部評価委員：岩崎滋、府川晃久、押田まり子、林 真弓、広井良典 ※敬称略
報告書作成者：細谷 美明（第三者評価委員）

評価時期 令和6年3月

1 重点目標の評価

重点目標1(人と関わる力を育む教育の推進)について

教員の自己評価や保護者のアンケート結果を見る限り、目標はおおむね達成できたものと判断する。本園については様々な教育活動の実施により園児たちの豊かな学びを達成しており、次年度以降もPDCAサイクルに基づいたより効果的な活動の継続を期待したい。

重点目標2(学びの基礎力を育む教育活動の推進)について

この項目についても、教員の自己評価や保護者のアンケート結果を見る限り、目標はおおむね達成できたものと判断する。ただ、一部の保護者から厳しい評価が見受けられた。教員だけでなく専門家や子育てを終えた家庭など第三者からの声も活用しながら引き続き保護者に対し幼稚園教育に関する理解に努めることが大切である。

重点目標3(健康な心と身体を育む教育活動の推進)について

この項目についても、教員の自己評価や保護者のアンケート結果を見る限り、目標はおおむね達成できたものと判断する。ただ、重点目標2と同様、一部の保護者から厳しい評価が見受けられた。繰り返しになるが、教員だけでなく専門家や子育てを終えた家庭など第三者からの声も活用しながら引き続き保護者に対し幼稚園教育に関する理解に努めることが大切である。

2 今後の改善に向けた意見

幼稚園教育では小学校以上に保護者や地域との連携が重要な要素であると同時に、小学校などの上級学校（縦）と他の幼稚園や保育園などとの横の連携が重視されている。本園がそのことを十分理解し具体化しているのがホームページである。たとえば、「子どもたちの様子」と題してほぼ毎日のように園児たちの活動や保育の様子を写真入りで紹介している。このことは、保護者のみならず本園の教育に関心を持つ人間すべてに対する重要なツールとして有効に働いている。今後さらにこうしたツールを活用しながら、自園の教育活動のさらなる充実を期待する。

3 その他の意見

本園でも他園で見られる異年齢交流や他園との交流などの幼小連携が行われているが、特に保護者も交えた保育園との連携・交流は立場の違う親同士がそれぞれの考えを交換し合うことで大変有効だとの評価がある。これまでの就学相談を主とした交流以外に、園児同士・保護者同士の交流を中心とした活動を企画することも検討してはどうだろうか。